

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500233		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢		
所在地	余市郡余市町黒川町145番地6 (電話) 0135-21-6222		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算12.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無		暖房費10~3月 7000円/月	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 81.8歳	最低	62歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院、済生会小樽病院、小嶋病院、林病院、よいちクリニック、
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者の意に添い、心を受けとめ、温かく生きがいのある生活環境」という事業所独自の理念の実現にホーム全体で取り組み、開設5年目を間近にした現在、安定した良質のケアサービスの提供が軌道に乗ってきているホームである。閑静な住宅地に立地し、余裕あるスペースを有しバリアフリーに配慮した改造型の建物である。衛生管理の徹底や協力医療機関の良好なサポートで、利用者の安心、安全な暮らしを支えている。職員は利用者一人ひとりにとってのケアサービスを熱心に追求し、信頼関係を築きながら、食事の嗜好調査や持てる力を発揮してもらう係わりは、利用者の状態緩和や意欲などに繋がり、家族からの信頼も得ている。利用者は職員とともに楽しみ、喜びを分かち合いながら日々ゆったりと過ごしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年の外部評価では、家族への利用者情報の提供、職員のホーム運営に対する意見の反映などが改善項目とし挙げられていたが、具体的な改善を講じたり、改善に向けての検討がなされてきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者は、サービスの質の確保に積極的であり、評価を活かそうとする姿勢である。自己評価に当たっては、評価項目を職員間で分担し、全体会議で話し合いを行ない、日々のケアサービスの見直しや改善の機会として取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) これまでに2回の運営推進会議が開催されており、ホームの概要や運営状況、また前回の外部評価結果の報告なども行なわれている。さらにメンバーの柔軟な受入れや活発な意見交換の場になる工夫、働き掛けを行ないながら、定期的な開催に向けての取り組みを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「アンケート箱」が設置され、内部、外部の苦情窓口の明示、案内を行なっている。ホームとして家族の思いや安心感を大切に捉えており、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態などの情報発信をきめ細かく提供している。今後、さらに家族の率直な意見、要望などの表出を助ける取り組みが期待される。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) まもなく開設5年目を迎え、地域住民とは双方向の関係が徐々に深まりを見せている。町内会に加入、清掃活動に協力し、近隣施設との関係も良好に築かれてきている。地元の人からの認知症に関する相談にも対応している。保育園児との運動会、クリスマスでの交流やホーム行事の中で地域少年団の和太鼓演奏もあり、利用者は地域の子供達との楽しい時間を過ごしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の「利用者の意に添い、こころを受けとめ、温かく、生きがいのある生活環境」という理念にもとづき、日々質の高いケアサービスの提供に努めているが、開設当初からの理念であり、地域密着型サービスとしての理念の見直しまでは至っていない。	○	開設以来地域との関係作り努めてきているが、さらにグループホームにおける地域密着型サービスの意義を職員間で確認し、現理念に加えて、その現状に即した事業所独自の理念への見直しを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の要所に理念の掲示がなされ、ミーティング時の唱和や新職員の採用時の説明により、全職員に対して、ホーム理念の浸透を図っている。また全体会議などで、理念の具体化としての日常介護に結びつく話し合いが実施され、ホーム全体で共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入、清掃活動に協力し、近隣施設との関係も良好に諮られている。保育園児との運動会やクリスマス会での交流、ホーム行事での地域少年団の太鼓演奏、認知症に関する相談にも対応し、地域住民との双方向の関係が徐々に深まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては、職員間で項目を分担し、全員で取り組んでいる。また前年の外部評価結果を受けとめ、改善項目について積極的に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		

余市町 グループホーム夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに2回の運営推進会議が開催され、ホームの概要や運営状況、年間行事などについて、また外部評価結果の報告も実施されている。その中でのだされた意見や要望は、ホーム運営に活かす取り組みしてきているが、推進会議が十分に機能するに至っていない。	○	今後、さらにメンバーの柔軟な受入れの他、会議がより活発な意見交換の場になるような工夫や働き掛けを行ない、定期的開催に向けての取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、日頃から相談しやすい関係が築かれており、介護認定時などのホーム来所時や、ケアマネジャー連絡協議会での交流、連携を図りながら、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりを伝えたり、必要な電話連絡を行なっている。「ホームだより」での行事などの報告や金銭管理報告のほか、利用者一人ひとりに写真と日々の状況を記載した近況報告を送付している。状態変化や受診に関しても報告、連絡を密に取っており、一人ひとりに合わせて丁寧な報告を実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との関係性を重要視し、コミュニケーションを大切にされた対応を行なっている。内外部の苦情等受付窓口を案内し、玄関先には「アンケート箱」を設置しているが、現在までに苦情、意見などはだされていない。	○	家族との関係に十分な配慮をしてきているが、開設5年目を間近にし、家族との良好な関係性は、ともすれば率直な意見などを言いがたい状況も生まれることも考慮され、家族からの意見や不満などの収集はホーム運営の質を高めるうえで、大切な留意点であるので、さらなる意見などの汲みあげスキルの向上や工夫を望みた
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はないが、職員の退職の際には利用者に納得いく説明を心掛けており、その時々状況に合わせて、利用者への影響の軽減に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保、向上に向けての育成の重要性を認識しており、常勤、非常勤職員を問わず、積極的な参加機会を提供している。また職員も学びに熱心に取り組んでおり、外部での研修後は全体会議などで研修内容についての発表を行ない、全体での共有化が促進されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、後志管内のグループホームのネットワーク作りに熱心であり、同業者同士の共同活動を通してサービスの向上にも取り組んでいる。また余市町ケアマネジャー連絡協議会主催の研修会に管理者、職員なども出席し、情報交換や交流の機会を持っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係作りと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に際しては、本人、家族の面談やホーム内の見学を通して、本人の意思や状況、心配事などを確認し、安心と納得に配慮したサービス開始に努めている。入居後は徐々に馴染んで行けるよう仮サービス提供票を作成し、職員がチームとして配慮と見守り介助を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員のケアサービスは、利用者一人ひとりが生きがいを持って生きていくことへの支援を目指しており、その人の現在のできることを、したいことを行ってもらいながら、ともに喜びを感じ、分かち合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがどのような思いを抱き、どのように暮らしたいかを日常会話の中で、また表情、行動などから受け止め、把握に努めている。家族との話し合いの中でも利用者の意向のすり合わせを行ない、カンファレンスで検討して全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画はサービス担当者会議により、意見を出し合い計画作成者がそれにもとづいて作成している。受け持ち担当者やユニットに限定するのではなく、全職員が活発に意見を出し合い、課題やケアのあり方を検討し、作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の入所の際は、情報提供書をもとに、仮サービス計画書を作成し、その後1ヵ月以内に現状に即した介護計画を作成している。見直しの必要性が理解しやすいようなケアプランマップやケアチェック表を独自に作成し、状況変化に応じて臨機応変に変更、見直しされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望により、医療機関の受診や理美容院の送迎支援を行なっている。遠隔地の家族の宿泊訪問も柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医による隔週の往診診療のほか、掛り付け医の受診支援を行なっている。緊急時の相談や他の専門医の紹介など良好なサポート関係が築かれている。また認知症に造詣の深い精神科医療機関や歯科医など協力も得られており、利用者一人ひとりのニーズに合わせた医療支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態変化に対しては、家族や医療機関と密接な連絡を取りながら、ホームとして取りうる支援を行なっている。重度化した場合のホームとしての方針について、利用開始時に本人及び家族に説明し、関係者間での共有がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する委員会が設置され、インシタル表示や個人記録などの管理の徹底が促されている。また職員の利用者に対しての接遇は親しみはあるが、誇りやプライバシーを損なうことのない対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりに関心を持ち、その人自身の生活を大切に見守っている。食事のペースや取る場所、入浴の希望や買物など身体状況に配慮しながら、できるだけ本人の意に添う個別性ある支援に努めている。		

余市町 グループホーム夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みを把握するために、年1回の嗜好調査を実施し、メニューに反映している。利用者それぞれの力量に合わせて料理の盛り付けや食器洗い、後片付けなどの役割も楽しみや張りになるよう見守り、サポートしている。また職員も同席し、ゆっくり楽しく食事が取れるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日が設定されてあるが、利用者の状況、希望により、柔軟に対応している。現在夜間の入浴希望はなく、午前、午後の時間帯で、本人のペースでの入浴支援を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レク委員会が設置され、利用者の生活歴、また現在のニーズ、意向を捉え、食事の挨拶や畑仕事、トランプ、昔話の音読や書道など小さなことでも生きがいに繋がるような役割や楽しみごとの支援に熱心に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時は、ホーム庭のベンチでの外気浴や散歩、買物に出掛けている。お花見や外食会など年7回の行事計画のほか、近隣施設の行事に出掛けるなどその日の状況、希望に添って対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解しており、日中帯は開放している。外出傾向の利用者も居られるが、玄関センサーでの察知や、職員全員での利用者の動向把握、見守り強化を実施し、鍵の掛けないケアの実践を行なっている。		

余市町 グループホーム夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て、消火訓練を実施し、合わせて緊急時連絡訓練も実施している。冬季間における避難場所については近隣施設に依頼をするなど、防災に対する働き掛けを行なっているが、地域の協力体制はまだ十分とは言えない。	○	様々な災害や時間帯を想定した具体的な災害時対応の検討や、実践的訓練、また職員だけの誘導の限界を確認し、運営推進会議などを通して地域住民に働き掛け、災害時の協力体制の構築などに取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個別に把握し、食事量の加減や調理法、食器の工夫なども行なっている。職員が交代で作成したメニューは、管理栄養士のチェックを得る機会を設け、栄養、カロリーバランスに配慮した食事提供を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改造型の建物であるが、家庭的な印象の居間には食卓やソファが配置されており、利用者同士で、また家族との語らいの場として自由に使用できる談話室も設けられている。陽光や湿度の調整などに配慮され、日めくりや毎日の食事メニューの写真の掲示もあり、居心地よく温かみある共用空間の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大容量の収納スペースが設置され、生活用品がスッキリと整理されている。希望者には冷蔵庫の設置もされている。大切にしている物、馴染みの物品（思い出の写真や家具など）が持ち込まれ、利用者本人にとっての安心の場としての居室に配慮されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。